

# 民報あばしり

NO.1055

2016.2.7

発行所

日本共産党  
網走市委員会  
網走市北八四三  
四三三、四四五八  
F 四三三、四四五七

## 新春のつどい開かれる



日本共産党網走市委員会と後援会の主催で、1月31日午後1時30分からエコーセンター大会議室で「2016年新春のつどい」が開催されました。この日は晴天にめぐまれ、参加者も開始時間には会場いっぱいになりました。

松浦敏司日本共産党網走市委員長から開会のあいさつがあり、昨年一年を振り返って参加者にお礼を述べました。昨年5月から始めた「戦争法案反対」の活動が、毎週土曜日に党と後援会のみなさんと行ってきたこと、その活動は今も「戦争法廃止」の運動として奮闘し頑張っています。そして、「今日の『新春のつどい』で、おおいに楽しみエネルギーを蓄え、7月の参院選で選挙区の森つねとさんと比例区で、いわぶち友さんを必ず国会に送りましょう」と呼びかけました。

来賓として日本共産党北見地区委員会の菅原誠委員長代行から網走市委員会と後援会のみなさんに激励の挨拶と、日本共産党への入党と「しんぶん赤旗」の購読の訴えがありました。最後に、日本共産党北海道委員会の千葉隆書記長から「安倍暴走政治が、日本は戦争しない国であったのを憲法を踏みにじり「戦争する国、戦闘行為もする」ことを可能にしてしまった。日本共産党は、安倍内閣を倒して「戦争法廃止」し「集団的自衛権行使容認の閣議決定を撤回する」、そのためにも参院選で森つねと候補と比例で日本共産党が躍進できるように支援をお願いします」と訴えました。

### 街・スポットライト

2月の寒さは流水とともにやってきました。昭和41年（1966年）から始まり今年で51回目となる「流水まつり」。そこで菊地記者は水像、雪像作成中のみなさんの奮闘ぶりを取材しました。

夜7時に私が会場に着くと50人くらいでしようか、若い人を中心に「お父さんのお手伝い」というかわいい

### 松浦 奮戦メモ

安部首相は、国会答弁で憲法学者など専門家

家の7割が安保法制が9条2項に違反すると言っている。だから憲法を変えて違反にならないようにするというのですから、なにかおかしいわんやです。こんな認識だから憲法に違反する法律を平気で提案し、国会の数の力で強行採決も行うのだなど、つくづく感じました。立憲主義とは、憲法の範囲内で法律をつくらなければならないから安保法制は、明らかに憲法9条に違反しているのです。憲法を変えるのではなく、憲法に違反する法律はつくりたくない。憲法違反の法律は1日も早くなくすしかありません。そのため、日本共産党は野党が協力して選挙を戦い野党が多数を占めて「国民連合政府」をつくり、立憲主義を取り戻すことを提案しているのです。

子供たちにも出会いました。取材したこの日も会場は風が強く、横殴りの雪が強くなっていました。

差し入れされた「おしるこ」を食べ、そしてまた各チームの雪像に向かっています。製作途中を見たことのない私は「これで製作何日目ですか」「何日くらいかかりますか」「職場の仲間ですか」「寒くないですか」「好きでやっていますか」などなど失礼な質問もしてみました。

「街のために頑張っています」「寒いですが！でもおもしろいです」「3回目です」明るく元気な声が返ってきました。中には、実行委員のメンバーから作る側になって10年以上と言う人もいました。

市民のみなさん、寒い中頑張って制作したみなさんの作品を「流水まつり」で見学してみたいかかでしょうか。

### 流水

「天からの恵み 受けてこの星に 生まれたる我が子、祈りこめ育て イラヨヨヘイ イラヨヨヘイ」と。沖

縄民謡歌手の古謝美佐子さんの喜びを「童神（わらびがみ）」という子守歌にした。古謝さんが3歳の時、米軍基地で働く父親が基地内の交通事故で亡くなり、自分と双子の弟を28歳の母親は必死に働いて育ててくれた。そんな悲しい苦しい思いを持ってから、「孫たちがおとなになつたとき、沖繩のすばらしい自然を残しておいてあげたい。小さな島の平和、守りたい。利権にしがみついて、お金で、自然や心を売り渡さないでほしいのです。」と。▼所属する合唱団の次回の定期演奏会で「子守歌のステージ」がある。その1曲に「童神」が選ばれ、練習している。作詞、作曲者の想いを、言葉の深い意味を受け止めて、歌いたい。▼尊敬するA牧師が昨年の末に亡くなった。平和に対する強い思いを持っていたので、病床にありながら、現政府に病を得ての気持ち、何度も何度も発信していた。お見舞いに出かけた時も、「私のできることですから」と、書き込んだメールを見せてくれた。そして、そのメールが止まった時、悲しい別れになった。大きな声で歌う讚美歌の響きを忘れない。▼葬儀の時は、「無防備地宣言」という旗を棺の上に覆い行ったそう。奥さんのお手紙でその様子を浮かべてみた。そして「これからの課題は大きいですね。互いに頑張りましょう。」と、結んであった。昨年の末から新年かけてあちこちに体調を崩す状況が現れたが、この便りをまた読み直している。(て)